日本建築学会中国支部研究報告集 第34巻
平成23年3月

都市農村交流イベントの拠点施設と活動内容
－山口県下関市菊川町「貴和の里につどう会」による地域活性化活動の事例研究　その４－

正会員　○利光　由江*
正会員　山本　幸子**
正会員　中園　眞人***
正会員　渡邉　弘崇*

中山間地域　都市農村交流事業　地域資源
廃校　空き家　住民主体

１.序論

近年中山間集落において、人口減少や農業の担い手不足による集落の衰退を背景に、地域住民が主体となって取り組む地域再生事業が各地で展開されている。活動の拠点としては、廃校や空き家等の既存ストックを活用したものが多く見られるが、それらは廃校のみ、空き家のみを単体で活用した活動に留まっている。一方、本研究で取り上げる「貴和の里につどう会」（以下つどう会）は、住民主体で廃校と空き家を整備し、それを一体的に活用して都市農村交流に取り組んでおり、地域住民による廃校・空き家などの地域資源の有効活用の手法の先進事例といえる。全国の過疎地域には廃校や空き家は多数存在し、その管理・活用が問題になっており、つどう会の活動は他地域の参考になりうると考える。

図 1 に全国の都市農村交流事業の事業内容の分類を示す。現在、日本各地の中山間都市で都市農村交流事業が行われているが、その活動のパターンは６つに分類できる。貴和の里につどう会では６つのうち「地場産品の直売・直送」、「農村・農業体験」、「スポーツ・文化交流」、「宿泊・交流施設の整備」の４事業に取り組んでいる。またオーナー・会員制度も現在検討中である。このように貴和の里につどう会は多くの活動を展開できていることも特徴として挙げられる。

本報は住民主体で廃校と空き家を整備し、それを一体的に活用して都市農村交流に取り組んでいるつどう会の活動を整理することにより、地域住民による廃校・空き家の地域資源の有効活用の手法を示し、今後の中山間集落における都市農村交流事業においての課題を抽出することを目的としている。具体的には 1)「貴和の里につどう会」の活動を対象に、都市農村交流において空間的な活動拠点を整備することの有効性を示し、2）点在する空き家、廃校などの施設を一体的に活用することの有効性を示す。

２.事業に使用される拠点施設の概要

つどう会の活動は、轡井公会堂・貴和の宿（空き民家利用）・廃校となった轡井分校の 3 施設を拠点に展開されている。本節では 3 施設の概要について整理する。

2.1 公会堂の概要

轡井公会堂は 1981 年に建設された。轡井自治会の所有する建物で、自治会の役員会、総会などの会議に使用されている。他にも老人会、婦人会、生き生きサロン、消防団、イートの会、酪農組合、ちぎり絵教室等の集落内のグループが定期的に使用している。

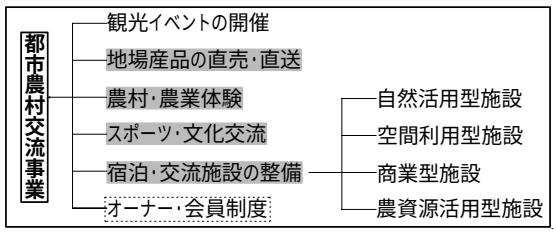

図 1　全国の都市農村交流事業の分類

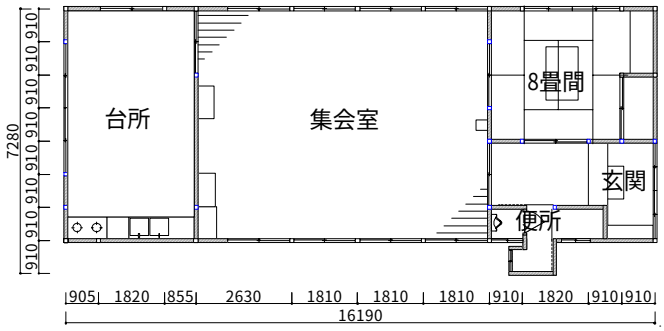

図 2　公会堂平面図

平面図を図 2 に示すが、建物は木造平屋建てで、板張りの集会室を中央に、西面に八畳間と増築された水洗便所、東面に土間台所を有す。土間台所へは勝手口から出入りが可能で、2 器のシンク、2 口ガス台 2 台、大人数用の炊飯ジャー等、調理用品・食器は一通りそろっており、調理スペースも広いため、大人数の食事を用意することが可能である。

2.2 轡井分校の歴史と建築概要

表 1 に轡井分校の歴史を示す。1876 年、轡井分校の前身である貴和小学校が轡井村に設置され、1883 年に校舎増築とともに保木尋常小学校貴和分校と改称された。1901 年に貴和分校校舎が新設され、1907 年に貴和分校は豊東尋常高等小学校轡井分教場となった。1947 年豊東小学校轡井分校と改称、1961 年に轡井分校校舎を改築、1967 年、校地を移転して新築、現校舎が完工された。1969 年には給食室が新設された。2005 年には在校生徒数が 0 名になったため休校となった後、2009 年に廃校が決

THE BASE INSTITUTION AND CONTENTS OF ACTIVITY OF THE URBAN-RURAL EXCHANGE EVENT
-The case study of the regional vitalization activities by *Kiwanosato-ni-tsudoukai* part4-

TOSHIMITSU Yoshie, YAMAMOTO Sachiko, NAKAZONO Mahito,WATANABE Hirotaka

写真 1　轡井分校
（菊川町史より）

表 1　轡井分校の歴史

西暦	轡井分校の歴史
1876年	轡井村に貴和小学校設置
1883年	校舎増築
	保木尋常小学校貴和分校と改
1901年	貴和分校校舎新築
1907年	貴和分校は豊東尋常高等小学校轡井分教場になる
1947年	豊東小学校轡井分校と改称
1961年	轡井分校校舎改築
1965年	轡井分校の校地を移転し新築。現校舎完工
	轡井分校に給食室新設
2005年	轡井分校休校
2009年	轡井分校廃校

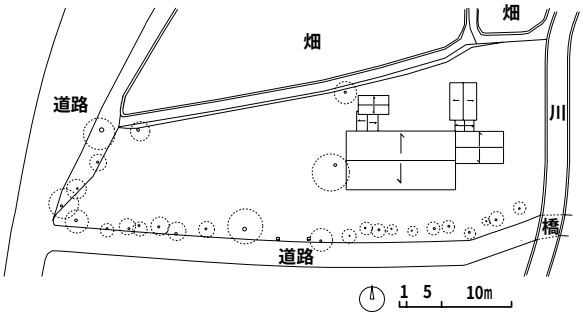

図 3　轡井分校配置図

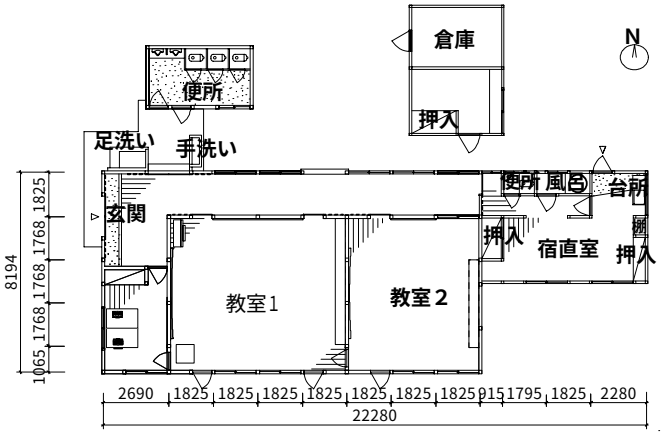

図 4　轡井分校平面図

定した。休校となってからは地域の住民のサークル活動の場として使用されている。

このように轡井分校の歴史は深く、3 集落の住民が分校に通っており分校に対する思い入れも強いことから、会

写真 2　貴和の宿外観

写真 3　貴和の宿内観

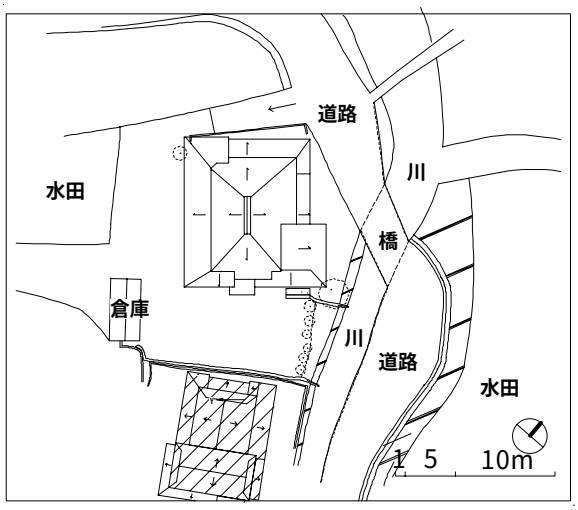

図 5　貴和の宿配置図

の発足と同時に分校が活動拠点として選定された。つどう会で使用する際は教育委員会へ毎回許可が必要であったが、2008 年 12 月から市から無償で借りることができるようになったため、電話・インターネット回線が整備され、会の事務局が校舎内に設けられた。

図 3 に配置図を示すが、敷地は東西に広く、敷地の東に校舎、西にグラウンドと遊具が配置されている。敷地内に大きな銀杏の木ともみじの木があり、敷地の東側には川が、北と南には水田、西側には道路を挟んで山があり、豊な自然の中に立地している。

図 4 に平面図を示すが、建物は木造平屋建てで、教室２部屋、保健室、宿直室を有し、宿直室には浴室・台所・便所が整備されており、別棟で便所と倉庫がある。つどう会では既存の状態のままで使用することとし、保健室が会の事務室として利用されている。

2.3 貴和の宿の概要

つどう会の新たな活動拠点として、大人数の食事、集会に対応できる空間、また、今後子どもを対象とした田舎宿泊体事業に取り組むため、空き家を利用した田舎体験施設を整備する計画がたてられた。空き家は廃校から徒歩で移動が可能な約 300m北側に位置する農家住宅が選定された。

配置図を図 5 に示すが、周辺は正面に水田、背面に道路を挟んで山林が広がり、自然豊かな環境の中に立地する。扠首構造の屋根と六間取りの平面構成で、当地方の典型的な農家住宅であり、土間台所には井戸と釜戸が残

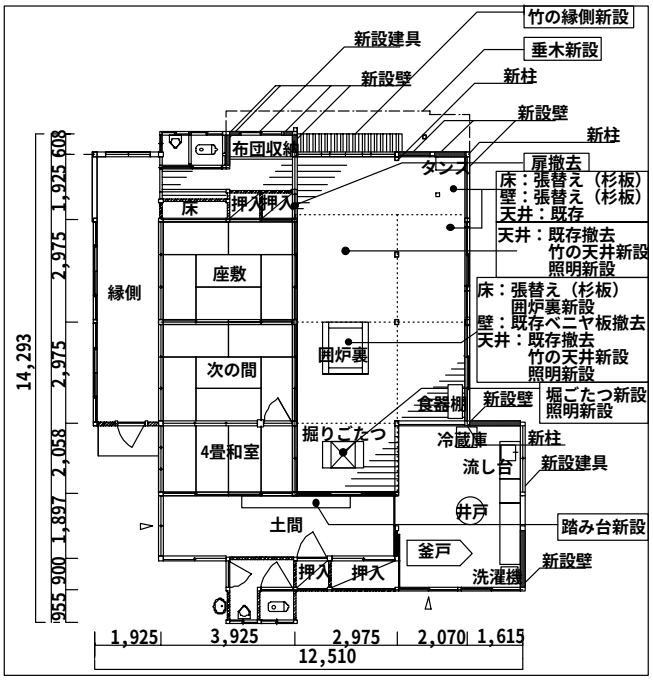

図６　貴和の宿平面図と改修内容（改修後）

表２　三年間のイベント表

イベント分類	年	イベント名	人数	使用場所				内容				
				公会堂	廃校	空き家	野外	調理	工作	自然体験	その他	昼食付
年間行事基本型	H19	芋ほり	90	C	BD		A			○		○
	H20	芋ほり・登山	94	C	BD		A			○		○
	H20	筍堀り	65	C	BD		A			○		○
	H21	筍堀り	65	C	BD		A			○		○
	H20	田植え・芋植え	66	C	BD		A			○		○
	H20	稲刈り・はぜ干し	45	C	BD		A			○		○
年間行事空家活用型	H21	芋ほり	52	C	B	D	A			○		○
	H2	田植え・芋植え			B	CD	A			○		○
	H2	稲刈り	47		B	CD	A			○		○
年間行事廃校使用型	H20	餅つき	69		ABCD					○		○
	H2	餅つき	99		ABCD					○		○
地域塾基本型	H20	地域塾1			ABD				○			
	H21	地域塾1	65		ABD				○			
	H21	地域塾2	41		ABD						○	
	H2	地域塾3	51		ABD		(A)		○	○	○	
	H20	地域塾4		C	ABD				○		○	○
	H2	地域塾4	68	C	ABD				○		○	○
地域塾空家活用型	H2	地域塾5	75		B(A)	CD	A	○		○	○	○
地域塾野外活動型	H2	地域塾6			B		AD			○		
	H2	地域塾6	56		B		AD			○		
	H2	登山			B		AD			○		

A:イベント開催場所　B:集合、解散場所　C:昼食準備　D:昼食会場

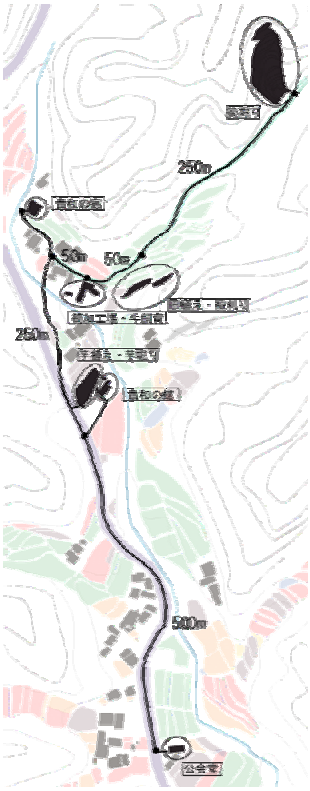

図７　イベント開催場所

されている。山口大学による実測調査の結果、床下の腐食が著しいことが確認され、床下腐食部材の交換を中心に改修計画が立てられた。改修工事はコストを抑えるため、地域住民のボランティアにより実施された。改修後の平面図と改修内容を図６に示すが、平面計画としては西側を一面ワンフロアの板間に改修し、床下は基礎・土台・束・束石・大引き・根太の大半が交換され、ジャッキアップにより柱が計３本交換され、差鴨居は主に南西部分が計７本交換された。柱頭・柱脚接合部は羽子板ボルト又は万能ボルトで固定している。インテリア改修として南側に竹の縁側が増設され、囲炉裏が移設された。設備改修としては土間台所に中古のシンクが設置され、釜戸が修繕された。便所は既存の汲み取り式のまま使用することとし、浴室は解体された。

３．都市農村交流イベントと利用施設の関係

表２に 2007 年から 2009 年に開催された３年間のイベントの内容・参加人数・使用場所を整理する[注1)]。また図７にイベント時に使用される建物とイベント開催場所の位置関係を示す。つどう会が本格的に活動を開始したのが 2007 年度半ばであることもあり、最初の一年間で行われたイベントは 11 月の芋ほりのみである。２年目の 2008 年と３年目の 2009 年度では計 11 回のイベントが開催された。イベントの告知は、会員に配るチラシ・新聞・TV での広報を行ったが、新規の参加者には前年度の参加者伝いに話を聞き、興味を持ち参加した人が多い[注2)]。

また都市農村交流イベントの中で夏季に開催される「地域塾」は、小学生を対象に地元会員を中心に「講師」となり、子どもたちに自然体験や工作を教えるもので、夏休み中に６回開催され、地元に帰省中の東京在住の親子なども見られた。「地域塾」は協働団体である地域共生ホーム「中村さん家」のスタッフと共に運営しているため、「中村さん家」の児童預かりサービスを利用している子どもたちの参加も多い。イベントの内容は年間行事と地域塾に分けられ、使用場所との関連によりイベントを図８に示すとおり「年間行事基本」型、「年間行事空

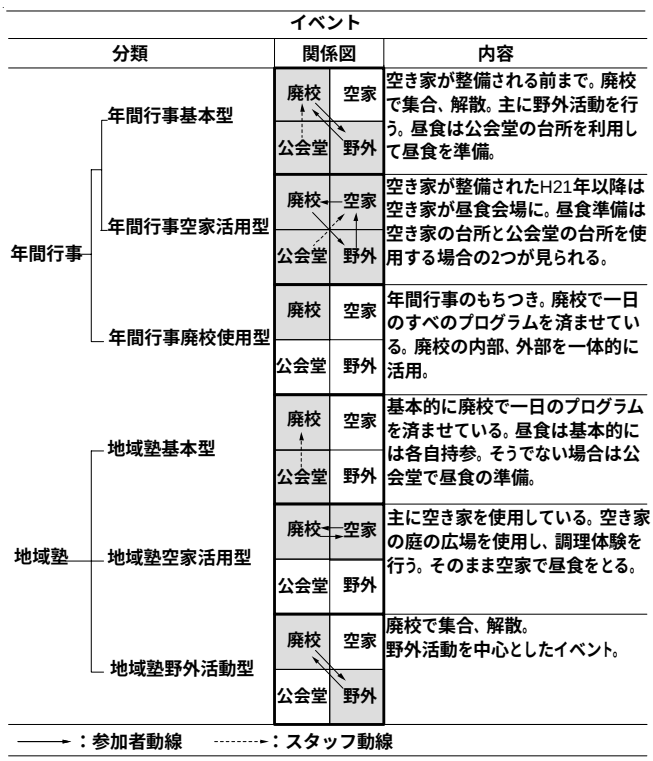

図 8　イベント分類図

き家活用」型、「年間行事廃校使用」型、「地域塾基本」型、「地域塾空き家活用」型、「地域塾野外活用」型に 6 分類される。基本型は年間行事と地域塾それぞれの主な型であり、「年間行事基本」型では公会堂を昼食準備、廃校を集合・解散場所と昼食会場、野外をイベント開催場所として使用している。「地域塾基本」型は廃校で一日のプログラムが展開される。これに対し「年間行事空き家活用」型は空き家が整備された 2008 年以降のケースで、廃校を集合・解散場所、空き家を昼食会場、野外をイベント開催場所として使用している。昼食準備は公会堂で行われる場合と空き家で行われる場合が見られ、イベントの内容は自然体験である。「年間行事廃校」型は廃校で一日の全てのプログラムが完結するタイプで、毎年 12 月に行われる餅つきが該当する。「地域塾空き家活用」型は廃校で集合・解散するものの、空き家を拠点に地域塾が実施されるケースで、2009 年の地域塾「カレー作り」が該当し、庭を使用し調理体験を行い、そのまま空き家で昼食が取られた。「地域塾野外活動」型は廃校を集合・解散場所として使用、野外をイベント開催場所、昼食会場として使用しており、イベント内容は自然体験である。

4．イベントの総合評価

本論では既存の廃校・空き家等の地域ストックを一体的に活用し、都市農村交流事業に取り組んでいる住民主体の活動事例分析を行った。本事例では事業発足の 2007 年 5 月から 2009 年 6 月までは廃校と公会堂の 2 箇所を拠点として活動が展開されており、(1)廃校の屋内と屋外を一体的に使用した大人数の参加が可能なイベント、(2)廃校の教室を使用し、子供たちの夏休み課外活動を行うイベント、(3)廃校を集合・解散場所とし、山登り等の野外活動をするイベント、が行われている。一方、空き家整備後の 2009 年 6 月以降は、以前のイベントに加え、(4)空き家の釜戸で米を炊く等、昔ながらの農家住宅を体験するイベントが新たに加えられている。

以下に都市農村交流事業を行うにあたって廃校、空き家等の既存ストックを整備し、使用することの効果と、それらを一体的に使用することの利点についてまとめる。

1) 廃校と空き家はそれぞれ異なる空間特性を持つため、多様なイベントが展開可能となる。廃校は広い空間面積を生かしイベントを開催する上での基本的な活動拠点として、空き家は昔ながらの農家住宅の造りを生かし農家の暮らしを体験する場として活用できる。
2) 廃校には調理施設がないため、公会堂・空き家を併せて使用するなど、一箇所の施設の設備を充実させずとも、他の施設を併せて使用することによって都市農村交流事業を行う上での空間の基本的な機能を補うことが可能となる。
3) イベントで利用する廃校と空き家、田畑等が同じ集落内にあり徒歩圏内で移動可能な距離にあるため、一体的な活用ができる。また、集落内の異なる場所に複数の拠点を持つことで、イベント参加者が実際に集落内を歩き、集落の生活に触れる機会の増加につながる。複数の拠点を巡り、活動していくことで交流圏域が拠点内だけでなく集落内までにも拡大していくことが期待される。

注釈

1） 調査期間は 2009 年 4 月から 2010 年 12 月である。
2） イベント参加者に対する聞き取りによる。

参考文献

1）中山間市町村における都市・農村交流と関連施設整備の実態（その 1）林　賢一、山下　仁、鎌田元宏、宮澤鉄蔵，日本建築学会計画系論文集，No.527，pp_163-167，2000.1
2）中山間市町村における都市・農村交流の生活環境への影響（その 2）林　賢一、山下　仁、鎌田元宏、宮澤鉄蔵，日本建築学会計画系論文集，No.544，pp_179-184，2001.6
3）地元住民団体による萱葺き民家の再生　山口県下関市菊川長「歌野清流庵」の事例，山本幸子、中園眞人、鵜　心治，山口大学工学部研究報告，Vol.56，No.1，pp.39-45，2005.10

* 山口大学工学部感性デザイン工学科　学部生
** 山口大学大学院理工学研究科　助教・博士（工学）
*** 山口大学大学院理工学研究科　教授・工博
* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.
** Assistant Professors, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.
*** Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.